

平成24年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取工業高等学校

学校長 小宮山 信行

評価日	平成25年2月21日（木）
評価・提言	学校の所見・改善策等
1 今年度の自己評価について (1) 各重点目標の達成状況とその評価について ○確かな学力の育成 ア. 進学対策補習実施計画に「1・2年の補習は今年度行わない」という記述があるが、生徒のモチベーションアップのために、補習は必要であり、適度な強制力があってもいいのではないか。年度によって、学校の対応が変わってしまうというのはいかなものか。 イ. 授業アンケートの集計結果の文書スタイルを校内で統一した方がよいのではないか。機械科の文書スタイルが分かりやすくていいように思う。生徒アンケートの結果をみると、ある学年や一部の学科で、評価が低いことが見かけられる。そうした学年や学科に対する指導を明確にしていく必要があるのではないか。 ウ. 自宅学習時間調査をみると、学習時間が学年推移で減少している。家庭でもっと学習するように指導していく必要があるように思う。生徒の意識改革が必要ではないか。 エ. 高校生として、十分な家庭学習時間を行っているとは思えないが、平均学習時間は微増しており学校の先生方の努力が反映していると思う。授業だけでは学習した内容は定着しないので、家庭学習はその意味で必要である。生徒に家庭学習時間調査の結果をフィードバックして、クラスごとに家庭学習時間の目標立てをさせてみてはどうか。また、保護者にも生徒が理解しておかなければならない学習内容を明示するなどして、連携をとつ	○1・2年でも進学対策補習を実施したいと考えているが、今年度の放課後補習に関しては、諸事情により計画的には実施できなかった。ただ、生徒の状況に応じて、補習は実施している。 ○校内で統一する方向で検討したい。年度によって学年や学科に、指導を要する生徒が多い場合がある。アンケートの分析を指導に生かすように校内でも検討をしているところである。 ○家庭学習は、学力をつける柱であると考えている。小テストを実施したり、課題を課すという形で、家庭学習時間を増やすように取り組んでいる。また、目的意識をもたせることによって、家庭学習時間を増やすことも考えていく必要があると感じている。 ○個別に具体的な目標を立てさせることは大切だと考えている。今の提言を次年度に生かせるように検討していきたい。

てはどうか。 ○豊かな人間性の育成 ア．欠席者数や指導件数が過去三年間の中で、増加しているように見受けられるがどうか。 問題行動が増加したりするのは、鳥工だけの問題ではなく、社会全体に要因があるように思われる。特に鳥取県の東部地区の経済状況を反映して、保護者の経済に影響を与え、それが子どもにも影響を与えているように思う。家庭との連携が必要になると思う。 イ．中途退学・転学の数値が高くなっているが、どうか。 ウ．今の生徒・保護者は耐える力が不足しているように思う。あまりにも過保護になりすぎているように思う。物質的には豊かになったが、心の面では貧しくなったように感じる。人のために一生懸命するという気持ちが大切であり、その意味でも家庭教育をしっかりする必要があると思う。 ○キャリア教育の充実と生徒の進路実現 ア．地域活動など学校行事の際に、外部にもっと宣伝することも必要ではないか。 イ．「鳥工版デュアルシステム」については、企業側がメリットを感じられず、負担感を思っているのではないか。そうした状況を打開するためにも県がもっと企業にてこ入れするようなことがあっていいのではないか。	○今年度の指導件数は昨年度より増加しているが、現時点では落ち着いてきており、今後急増する状況にはない。欠席者数については、進級できなかった生徒の欠席日数が主な原因となっている。 ○進級できなかった生徒や問題行動を起こした生徒が進路変更した結果、昨年度より数値が高まった。 ○機会あるごとに、教育委員会を通じて報道関係に連絡はしている。今後もさらに情報提供を進めていきたい。 ○学校としても企業に謝金も出せず、心苦しく思っているのが現状である。県教委にそうした予算を付けてもらいたいと考えている。
--	---

○その他 ア. 自己評価の仕方がアンバランスになってはいないか。評価の仕方を検討する必要があるのではないか。 イ. 桜の宮高校のことで、体罰のことが大きな話題となっている。最近の傾向として、厳しい指導があるとすぐに暴力・暴言ではないかとされるが、そのことによって本来行われている教育活動が汲々としてしまわないか危惧している。是々非々をしっかりと教えることが大切であり、管理職の対応が大切である。 ウ. 厳しい指導をすることで、問題視されるような風潮によって、教員が委縮してしまうことがないように、管理職は環境作りをしてもらいたい。教員がやる気をなくすことがないように、自信をもって教育活動をおこなってもらいたい。	○自己評価は、分掌・学年・学科・教科でそれぞれ評価したものを数値化して、単純平均してA～Dの評価を付けている。指摘をいただいたとおり、教科の中には、1名しかいない場合もあるのも事実であり、評価の付け方を検討したい。
--	--